

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
来迎寺地区

平成25年6月

新潟県長岡市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	自主防災活動参加人数	人	10	250	450	確定			あり	753	H24年5月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	越路防災ひろばや地域防災マップづくりなどの防災に関する事業を推進したことにより、市民の防災意識が向上し自主防災活動参加人数が増加した。
						見込み								
指標2	地域活動ボランティア参加人数	人	10	50	100	確定			あり	120	H24年5月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	ホテルロードの清掃活動やイベントの運営、越路防災ひろばの維持管理を通して、地域活動ボランティア参加人数が増加した。
						見込み								
指標3	冠水区域の解消	%	30	0	0	確定			あり				改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	雨水機能調査に基づいた側溝改修や排水路スクリーンの改修等の対策により、冠水区域が解消された。
						見込み								

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定				H 年 月			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2					確定				H 年 月			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	
					見込み								
その他の数値指標3					確定				H 年 月			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	
					見込み								

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	ホタルロードを活かしたまちづくり	・ホタルロードキャンドルナイト	・継続的に取り組んでいるイベントである。地域環境に関心を持つ住民が増加したことにより、ボランティア参加人数が増加した。	・継続事業であることからマンネリ化しつつある。新たな発想を取り入れる必要があることから、地域の大学や企業との交流を進めていきたい。
	自主防災活動の促進	・各自主防災会主催の防災・避難訓練 ・防災に関する広報活動	・今まで無関心だった若年層からも参加する人が増えつつある。	・地域防災マップの更新。 ・今回作成した「防災マップ作製の手引き」の普及を図る。 ・行政からの防災訓練開催にかかる技術的(訓練方法・避難路の選定など)支援。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	・長岡南西部の防災の拠点性を高めるために、小国地域との連携を強化する越路原バイパスの整備推進	・越路原バイパス整備事業	越路原バイパス整備事業の一部区間(来迎寺ルートL=1,500m)が供用開始となった。このことにより連携強化が図られた。	事業効果を発揮させるため、越路原バイパス整備事業の一部区間(東谷ルートL=1,700m)の整備促進を図ってゆく。
	・地域経済活力の保全に必要な新たな活力として、長岡南越路スマートICを活用した交流人口の拡大	・観光ボランティアガイド養成講座	・ボランティア観光ガイドを活用した「もみじ園ガイド」・「光と古の共演 越の路」(イベント)が開催されたことにより、交流人口の拡大に貢献した。	・来訪者の増加に対応するため、観光ボランティア増員。
	・越路地域全体へ地域防災マップの普及	・防災に関する広報活動 ・地域防災マップづくりの支援	・地域防災マップづくりをマニュアル化したことで、参加者の達成目標を明確にすることができ、理解度が格段に向上した。	・地域防災マップの更新。 ・マニュアル化した「防災マップ作製の手引き」の更なる普及を図る。
	・移動円滑化及びバリアフリーに関する基本構想の策定とそれに基づく歩行空間のネットワーク整備	・移動円滑化及びバリアフリーに関する基本構想の策定	・JR信越本線来迎寺駅の白山地下道及び一般県道大荒戸越路線(白山区間L=950m)のバリアフリー化に向けて事業を進捗させる。	・白山地下道は長岡市が整備する。県道は新潟県が整備することとなる。整備は交通規制が伴うことから、互いに連携しながら地域住民に説明と理解を得る必要がある。
	・越路防災ひろばを活用した広域的な避難訓練などの自主防災活動の促進	・消防署と連携した防災イベントの実施 ・防災に関する広報活動	・広域防災訓練の実施に向けて、関係機関と協議している。(平成25年10月実施予定)	・平常時における越路防災ひろばの活用を促進する必要がある。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
なし			

都市再生整備計画(清算報告)

来迎寺地区

新潟県 長岡市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	長岡市	地区名	来迎寺地区	面積	985 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度				

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市基盤の再生とひとに優しく災害に強いまちづくり 小目標 都市基盤を形成する公共施設の再点検を行い、災害から市民生活を守るために必要な居住空間の再生・整備を図る。 小目標 地域住民・事業者・行政が協働して、来迎寺地域における都市基盤の再構築による活性化とまちの魅力づくりを図る。

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧越路町は、新潟県のほぼ中央部にあり越後平野の南西端に位置し、東部を“大河・信濃川”、中央部を洪海川が形成するなだらかな三角州が形成する肥沃な土地と豊かな水の利に恵まれ、古くから良質な米の産地として知られている。また、豊富な地下資源(天然ガス)にも恵まれるとともに、郊外型の地域産業も発達し田園都市として市街地の形成がなされている。この他に付近の丘陵地一帯には、古代の石器や土器等が出土し、長者屋敷や百塚等の遺跡が発掘されている。 当地区は、昭和45年9月に高度経済成長時代に対応すべく地域の将来像の施策として、「越路町開発長期構想(総合計画)」を策定した地区である。この計画では長岡都市圏への人口流出による過疎化へ歯止めをかけるため、居住用地確保の必要性があった。このことから、まちの中心部であり、以前は小千谷・魚沼地方への地域間の交通結末点としての宿場町として繁栄した当地区において、昭和46年からJR信越本線来迎寺駅周辺の46.2haについて、新たなまちの中心部として民間主導による宅地造成が施工された地区である。 開発当初から鉄道線路(JR信越線)により分断された市街地形成が課題となっており、地域間のコミュニティーの低下が進行するとともに、居住開始より数十年経過したこともあり、地域住民の多くは核家族化が進行していることやそれに伴う少子高齢化の問題点として持ち上がってきた。これらより、地域の活性化について検討を行い、平成13年3月に来迎寺駅周辺について地域住民及び行政との協働による“中心市街地活性化構想”を策定したが、財政状況との整合性及び地域住民の活性化に直接繋がる内容でないなど課題を多く残したまま現在に至っている。 また、当地区では、近年多発している都市型災害(集中豪雨など)や新潟県中越地震に伴う被災の経験を踏まえ、“越路まち・みらい工房”が発足し、空洞化した市街地の活性化に関する検討や少子高齢化社会に適応する災害に対する備えと対応すべく“日本一災害に強いまちづくり”について検討している。

<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 越路地域の中心拠点として、また市町村合併後の広域化した“新・長岡市”の副次的拠点整備区域として、周辺住民に限定しない利便性の高い防災拠点施設の整備が求められている。 人口減少・高齢化が進んでおり、地域まちづくり経営における経済活力の保全に必要な新たな活力とそれらを創出する都市機能に関連する基盤施設の再生および再構築が緊急の課題となっている。 都市型集中豪雨に伴う浸水被害が局部的に発生しており、河川改修事業(洪海川・須川)の進捗率の遅延により、地域住民の被害対策が皆無となっていることから、被害対策に強い生活環境づくりが望まれている。 少子高齢化の地域社会における自治防災活動の位置づけを明確にし、防災力の強化を緊急に図らなければならない。 高齢者・障害者に対応する交通弱者対応など移動円滑化およびバリアフリーに関する基本構想をベースとした歩行空間の整備が不十分となっている。

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>長岡市では、市町村合併という基本的な枠組みの変化に加え、少子高齢化の急速な進展、環境問題の深刻化、高度情報通信社会の到来、市民ニーズの多様化など、市政をとりまく環境は大きく変化しており、この変化に対応するため、計画的かつ安定的な行政運営が求められている。また、魅力あるまちづくりを進展させるため、「長岡地域新市建設計画」及び「長岡市復興計画」を踏まえて、今後の時代の潮流、社会経済情勢の変化、財政状況を勘案した上で、市政の一層の推進を目指して「総合計画」を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の視点に立った市民活動・地域活動の推進…全てを行政が中心となって行うのではなく、市民・地域・行政など様々な主体がそれぞれの役割に応じた協働体制づくりを行う。 顔が見える地域の支え合いの仕組みづくり…少子高齢化社会に対応すべく安心して暮らせるように、高齢者を地域で支える仕組みを構築する。 高品質の製品づくりと高付加価値の推進…長岡市の地域特性などにマッチングした既存の産業を再構築する社会基盤整備や新たな産業を創出・育成するため、必要な各種基盤整備、ブランド化を推進していくとともに、人材育成や産学連携などを推進する。 市民や来訪者にとって安全・快適・便利なまち…市民の暮らしやすさの視点に立った都市基盤の整備に加えて交流人口を増やすとともに、災害に強い都市基盤の整備・再構築を行い、全国のモデルとなるまちづくりを行う。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
					基準年度	目標年度	目標年度
自主防災活動参加人数	人	地域防災活動(自主防災・消防活動)の参加人数	地域防災活動において、防災訓練及び防犯訓練に参加することにより、地域防災力の向上を目指す。	10	250	H17	H23
地域活動ボランティア参加人数	人	地域活動のボランティア参加人数	既存施設の維持管理を周辺住民が支えてきたが、少子高齢化に伴い参加者が激減していることから、地域における魅力の再発信と地域力・市民力の向上を目指す。	10	50	H16	H23
冠水区域の解消	%	区域内の冠水区域の解消	都市雨水対策事業の推進により、防災調整池・貯留管・浸水対策マップ・水防倉庫の整備を行い、冠水地区の解消を目指す。	30	0	H16	H23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 災害に強いまちづくりの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年多発している都市型災害(集中豪雨など)や新潟県中越地震に伴う被災の経験を踏まえ少子高齢化社会に適応する災害に対する備えと対応策について施設の再構築及び整備を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路事業(地方道) 市道越路200、306、313、330、445・449号線 地域生活基盤施設事業(広場) 越路防災ひろば <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活用調査事業 地域防災マップ
<p>整備方針2 地域住民・事業者・行政の協働によるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、事業者、行政が情報を共有し、知恵を出し合い役割を分担して、協働によるまちづくりおよび地域力、市民力の強化に向けた体制の充実を図る。 	<p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活用調査 防災機能活用調査 まちづくり交付金事業の実施に関する成果検証 及びまちづくり方策検討 まちづくり活動推進事業 まちづくり協議会

その他

事業完了後の地域住民によるまちづくりについて
越路まち・みらい工房や地元町内会・地域消防団と連携により、地域防災力の強化促進が図れるとともに、少子高齢化社会へ向けた新たな地域防災モデルについて検討し、周辺の集落とともに、越路地域の防災力強化に努めたい。

交付期間中の計画の管理について
交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるため、地域の有識者・代表者で構成する地域委員会に年10回程度報告会を開催し、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果を随時、市政だより - 越路地域版 - による広報活動を行う。

